

【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

Q1. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：カ変「来」未然形「こ」＋「なむ」（願望）。「春が来てほしい」。

Q2. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「降ら」未然＋「なむ」。「雨が降ってほしい」。

Q3. 答え：係助詞「なむ」（強調）

解説：体言「月」＋「なむ」。「月こそ清く照る」（強調）。連体形「照る」で結ぶ（連体形結び）。

Q4. 答え：ナ変動詞「死ぬ」未然形「死な」＋推量「む」

解説：ナ変「死ぬ」未然「死な」＋「む」。「死ぬだろう」。

Q5. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」

解説：「言ひ」連用＋「な」（完了ぬ未然）＋「む」。「言ってしまうだろう」。

Q6. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」

解説：「来（き）」はカ変「来」の連用形。連用形＋完了「ぬ」未然形「な」＋推量「む」。「私が待っている人は、明日はきつと来るだろう」。「来（こ）なむ」と読めば、未然形＋他者への願望で「来てほしい」になる（Q1）。漢字の「来」は読みで決まる。

Q7. 答え：係助詞「なむ」（強調）

解説：体言「春」＋「なむ」＋過去「けり」連体形「ける」（係り結びの結び）。「春を待っていたのだ」。

Q8. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「吹か」未然＋「なむ」。「風が吹いてほしい」。

Q9. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」

解説：「帰り」（四段「帰る」連用形）＋完了「ぬ」未然形「な」＋推量「む」。主語が「人々」（3人称）なので推量。「人々は早く帰ってしまうだろう」。

Q10. 答え：係助詞「なむ」（強調）

解説：体言「音」（鐘の音）＋係助詞「なむ」。結びは下二段「聞こゆ」の連体形「聞こゆる」（終止形なら「聞こゆ」）。「鐘の音が遠くに聞こえるのだ」。

Q11. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「眠ら」未然＋「なむ」。「心安く眠ってほしい」。

Q12. 答え：完了「ぬ」未然「な」＋接続助詞「ば」（仮定）

解説：四段「言ふ」連用形「言ひ」＋完了「ぬ」未然形「な」＋「ば」（順接仮定）。「もし物を言ってしまったら、咎められる」。「なむ」ではないが、「な」の識別力を試す引っ掛け問題。

Q13. 答え：ナ変動詞「往ぬ」未然形「往な」＋意志「む」

解説：ナ変「往ぬ」未然＋「む」。主語が「我れ」（1人称）なので「む」は意志。「私は立ち去ろう」。

Q14. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」

解説：「知り」連用＋「な」＋「む」。「知ってしまうだろう」。

Q15. 答え：係助詞「なむ」（強調）

解説：「君」＋「なむ」＋連体「思ふ」。

Q16. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「照ら」（四段「照る」未然形）＋「なむ」＋引用「と」。未然形＋「なむ」＝他者への願望。「月がもう少しの間照っていてほしいと思う」。

Q17. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」

解説：「降り」（四段「降る」連用形。未然形なら「降ら」）＋完了「ぬ」未然形「な」＋推量「む」。「空が急に曇った。雨もきっと降るだろう」。Q2「雨降らなむ」（未然形＋願望＝降ってほしい）と一字違い。

Q18. 答え：完了「ぬ」未然＋意志「む」

解説：上一段「見る」は未然形も連用形も「見」なので、形だけでは決まらない。主語が「われ」（自分）なので、他者への願望の「なむ」ではない（願望の「なむ」は、ほかの人や物に「～してほしい」と望む）。連用形「見」＋完了「ぬ」未然形「な」＋意志「む」。「私も、あの山の桜をきっと見よう」。

Q19. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「止ま」未然＋「なむ」。「雨が止んでほしい」。

Q20. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「咲か」未然＋「なむ」。「花が咲いてほしい」。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

Q21. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」

解説：「咲き」連用＋「な」＋「む」。「花が咲いてしまうだろう」。

Q22. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「聞か」（四段「聞く」未然形）＋「なむ」。未然形＋「なむ」＝他者への願望。「私の言うことを、人も聞いてほしい」。

Q23. 答え：係助詞「なむ」（強調）

解説：体言「我が宿」＋「なむ」＋連体「よき」。「我が宿こそよい」。

Q24. 答え：ナ変「死ぬ」未然＋推量「む」

解説：「死な」（ナ変「死ぬ」未然形）＋「む」。主語が「かの翁」（3人称）なので「む」は推量。「病が重いので、あの老人はまもなく死ぬだろう」。

Q25. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」

解説：「行き」（四段「行く」連用形）＋完了「ぬ」未然形「な」＋推量「む」。主語が「使ひの者」（3人称）なので推量。「使いの者は、急いで行ってしまうだろう」。

Q26. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「育た」未然＋「なむ」。「子も健やかに育ってほしい」。

Q27. 答え：係助詞「なむ」

解説：格助詞「に」＋係助詞「なむ」。過去「けり」の連体形「ける」で結ぶ。係助詞「なむ」は体言だけでなく助詞の下にも付く。「私の家に梅が咲いたのだ」（強調）。

Q28. 答え：ナ変「往ぬ」未然＋推量「む」

解説：「往な」（ナ変「往ぬ」未然形）＋「む」。「と」の中の主語は「かの人」（3人称）、思うのは「われ」なので「む」は推量。「あの人は明日立ち去るだろうと、私は思う」。

Q29. 答え：完了「ぬ」未然＋意志「む」

解説：下二段「忘る」は未然形と連用形が同じ「忘れ」なので、形だけでは決まらない。主語が「われ」（自分）なので、他者への願望の「なむ」ではない。連用形「忘れ」＋完了「ぬ」未然形「な」＋意志「む」。「私は、つらいことを早く忘れてしまおう」。

Q30. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「帰ら」未然＋「なむ」。「月の都へ帰ってほしい」。

Q31. 答え：係助詞「なむ」

解説：体言「雪」＋「なむ」＋連体「降りける」。

Q32. 答え：ナ変「死ぬ」未然＋意志「む」

解説：「死な」（ナ変「死ぬ」未然形）＋「む」。主語が「我れ」（1人称）なので「む」は意志。「私も死のう」。

Q33. 答え：完了「ぬ」未然＋意志「む」

解説：「言ひ」連用＋「な」＋「む」。「言ってしまうおうとするが、声が出ない」。

Q34. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「待た」（四段「待つ」未然形）＋「なむ」。未然形＋「なむ」＝他者への願望（ここでは花に望む）。「散らで」の「で」は打消の接続助詞（～ないで）。「故郷の花が、私が帰るまで散らずに待っていてほしい」。

Q35. 答え：係助詞「なむ」

解説：「夜」＋「なむ」＋連体「心細き」。

Q36. 答え：ナ変「往ぬ」未然＋意志「む」

解説：「往な」未然＋「む」。「急いで立ち去ろう」。

Q37. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」

解説：「落とし」（四段「落とす」連用形。未然形なら「落とさ」）＋完了「ぬ」未然形「な」＋推量「む」。「そんなことを聞いたら、人もきっと涙を落とすだろう」。

Q38. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「移ら」（四段「移る」未然形）＋「なむ」。未然形＋「なむ」＝他者への願望。「梅の香りが袖に移ってほしい」。

Q39. 答え：係助詞「なむ」

解説：体言「今日」＋「なむ」＋連体「ある」。「今日こそ祭りがある」。

Q40. 答え：完了「ぬ」未然＋意志「む」

解説：「立ち」（四段「立つ」連用形）＋完了「ぬ」未然形「な」＋意志「む」。主語が「われ」（1人称）なので意志。「私は、早く出発してしまおう」。

Q41. 答え：完了「ぬ」未然＋意志「む」

解説：下二段「仕ふ」は未然形と連用形が同じ「仕へ」なので、形だけでは決まらない。主語が「われ」（自分）なので、他者への願望の「なむ」ではない。連用形「仕へ」＋完了「ぬ」未然形「な」＋意志「む」。「私は、この君にきつとお仕えしよう」。

Q42. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「鳴か」未然＋「なむ」。「鳥も鳴いてほしい」。

Q43. 答え：係助詞「なむ」

解説：体言「雨」＋「なむ」＋連体「降る」。

Q44. 答え：ナ変「死ぬ」未然＋意志「む」

解説：「死な」未然＋「む」。「死のうと思うが、生き長らえている」。

Q45. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」

解説：「待ち」（四段「待つ」連用形）＋完了「ぬ」未然形「な」＋推量「む」。主語が「友」（3人称）なので推量。「友は、まだきつと待っているだろう」。

Q46. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「渡ら」（四段「渡る」未然形）＋「なむ」＋引用「と」。未然形＋「なむ」＝他者への願望。「旅に行く人が、この川を無事に渡ってほしいと祈る」。

Q47. 答え：係助詞「なむ」

解説：「鶯」＋「なむ」＋連体「鳴く」。

Q48. 答え：ナ変「往ぬ」未然＋意志「む」

解説：「往な」＋「む」。「京へ行こうと思ひ立つ」。

Q49. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」

解説：「止み」（四段「止む」連用形。未然形なら「止ま」）＋完了「ぬ」未然形「な」＋推量「む」。「この雨は、まもなくぎっと止むだろう」。Q19「雨止まなむ」（未然形＋願望＝止んでほしい）と一字違い。

Q50. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「過ぎ」未然＋「なむ」。「心安らかに過ごしてほしい」。

【第3部】応用編（Q51～Q80）

Q51. 答え：完了「ぬ」未然＋意志「む」

解説：「帰り」四段「帰る」連用＋完了「ぬ」未然「な」＋意志「む」。連用形接続。1人称「思ふ」と連動。「きっと帰ろうと思う」（強意＋意志）。

Q52. 答え：係助詞「なむ」

解説：「鳥のこゑ」＋「なむ」＋連体形「あはれなる」。「鳥の声がしみじみとしている」。

Q53. 答え：ナ変「往ぬ」未然＋推量「む」（連体形・仮定）

解説：「往な」（ナ変「往ぬ」未然形）＋「む」。「む」は下に助詞「に」が続く文中の連体形なので仮定（もし～としたら）。「雪が深いので、立ち去るにしても、足を踏み出すのが難しい」。「立ち去ろうにも」と意志のように訳すこともある。

Q54. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」（連体形・婉曲）

解説：下二段「隠る」は未然形と連用形が同じ「隠れ」だが、下に体言「ほど」が続くので「なむ」は連体形。願望の終助詞「なむ」は活用せず体言には続かないので、連用形「隠れ」＋完了「ぬ」未然形「な」＋推量「む」の連体形。体言の前の「む」は婉曲（～ような）。「月が沈んでしまうような頃に」。

Q55. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「訪は」（四段「訪ふ（とふ）」未然形）＋「なむ」。未然形＋「なむ」＝他者への願望。「だに～なむ」は「せめて～だけでも～してほしい」。「私の思う人が、せめて今夜だけでも訪ねてきてほしい」。

Q56. 答え：係助詞「なむ」

解説：「都の事」＋「なむ」＋連体「忘れざりし」。

Q57. 答え：ナ変「往ぬ」未然＋意志「む」

解説：「往な」（ナ変「往ぬ」未然形）＋「む」。「いざ」（さあ）と呼応し、誘う相手が書かれていないので意志。「さあ、行こうよ」。（「よ」で相手に呼びかけているとみて、勧誘とする説もある）

Q58. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」（連体形・婉曲）

解説：上二段「落つ」は未然形と連用形が同じ「落ち」だが、下に「を」が続くので「なむ」は連体形（「～のを」の形）。願望の終助詞「なむ」は活用せず「を」には続かないので、連用形「落ち」＋完了「ぬ」未然形「な」＋推量「む」の連体形（婉曲）。「涙がこぼれてしまうようなのを、人に見られまい」。

Q59. 答え：係助詞「なむ」

解説：「春」＋「なむ」＋連体「来にける」。「春が来てしまった」（強調）。

Q60. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「着か」（四段「着く」未然形）＋「なむ」＋引用「と」。未然形＋「なむ」＝他者への願望。「迎いの舟が、早く着いてほしいと待つ」。

Q61. 答え：係助詞「なむ」

解説：「世の中」＋「なむ」＋連体「かなしき」。「世の中こそ悲しい」。

Q62. 答え：ナ変「死ぬ」未然＋推量「む」（連体形・仮定）

解説：「死な」（ナ変「死ぬ」未然形）＋「む」。「む」は下に係助詞「こそ」が続く文中の連体形なので仮定（もし～としたら）。「いみじけれ」は「こそ」の結び（形容詞「いみじ」の已然形）。「死ぬとしたら、それこそひどく悲しいことだ」。（「死ぬようなこと」と婉曲にとる説もある）

Q63. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」

解説：「忘れ」は四段「忘る」の未然形「忘ら」＋受身の助動詞「る」。「る」は未然形も連用形も「れ」なので、形だけでは決まらない。主語が「われ」（自分）で、自分が忘れられることを推し量っているので、他者への願望ではない。受身（忘れられる）は自分の意志でできることではないので、主語が「われ」でも意志ではなく推量。連用形「れ」＋完了「ぬ」未然形「な」＋推量「む」。「年月が経つと、私もまもなく人に忘れられてしまうだろう」。

Q64. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「おはせ」未然＋「なむ」。「我が君も健やかでいらっしやってほしい」。

Q65. 答え：係助詞「なむ」

解説：格助詞「と」＋係助詞「なむ」。結びは過去「けり」の連体形「ける」。係助詞「なむ」は、体言だけでなく「と」などの助詞の下にも付く。「この川を、音無川と言ったのだ」。

Q66. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」

解説：「あり」はウ変「あり」の連用形（未然形なら「あら」）。連用形＋完了「ぬ」未然形「な」＋推量「む」。「ありなむ」は「きっと（それで）よいだろう・かまわないだろう」の意味でよく使う。「このままでもきつとかまわないだろう」。未然形の「あらなむ」（Q78）なら他者への願望。

Q67. 答え：ナ変「往ぬ」未然＋勧誘「む」

解説：「往な」（ナ変「往ぬ」未然形）＋「む」。「いざ給へ」（さあ、いらっしやい）と相手を誘っているので「む」は勧誘（自分も一緒に行くので意志とする説もある）。「さあいらっしやい、（一緒に）行きましょう」。

Q68. 答え：係助詞「なむ」

解説：形容詞「をかし」の連用形「をかしく」＋係助詞「なむ」。結びは下二段「見ゆ」の連体形「見ゆる」（終止形なら「見ゆ」）。連用形の下でも、形容詞の「～く」に付いて下が連体形で結ばれる「なむ」は係助詞（完了「ぬ」は形容詞の「～く」には付かない）。「花の色が、とても趣深く見えるのだ」。

Q69. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「のどかなら」（形容動詞「のどかなり」の未然形）＋「なむ」。未然形＋「なむ」＝他者への願望。「世の中がいつも穏やかであってほしい」。連用形なら「のどかなりなむ」（きっと穏やかであるだろう＝完了＋推量）。

Q70. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」

解説：「言ひ」連用＋「な」＋「む」。「とても上手に言ってしまうだろう」。

Q71. 答え：係助詞「なむ」

解説：体言「君」＋係助詞「なむ」。結びはサ変「おはす」の連体形「おはする」（終止形なら「おはす」）。「にて」の「に」は断定「なり」の連用形。「かしこし」はここでは「賢い・すぐれている」。「あなたは賢い方でいらっしやるのだ」。

Q72. 答え：ナ変「往ぬ」未然＋意志「む」

解説：「往な」＋「む」。「山深く立ち去ろう」。

Q73. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」（連体形・婉曲）

解説：下二段「聞こゆ」は未然形と連用形が同じ「聞こえ」だが、下に体言「頃」が続くので「なむ」は連体形。願望の終助詞「なむ」は活用せず体言には続かないので、連用形「聞こえ」＋完了「ぬ」未然形「な」＋推量「む」の連体形（婉曲）。「鶯の声が聞こえるような頃」。

Q74. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「積もら」未然＋「なむ」。「雪が深く積もってほしい」。

Q75. 答え：係助詞「なむ」

解説：体言「月の都の人」＋係助詞「なむ」。結びはカ変「来」の連体形「来（く）る」（終止形なら「来（く）」）。「月の都の人が、迎えに来るのだ」。

Q76. 答え：ナ変「死ぬ」未然＋意志「む」

解説：「死な」＋「む」。「早く死のうと願う」。

Q77. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」

解説：「入り」（四段「入る」連用形。未然形なら「入ら」）＋完了「ぬ」未然形「な」＋推量「む」。「月もまもなく沈んでしまうだろう」。

Q78. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「あら」未然＋「なむ」。「故里より便りがあってほしい」。

Q79. 答え：係助詞「なむ」

解説：「雲井」＋「なむ」＋連体「遠き」。「雲井こそ遠い」。

Q80. 答え：ナ変「往ぬ」未然＋意志「む」

解説：「往な」（ナ変「往ぬ」未然形）＋「む」。主語が「われ」（1人称）なので「む」は意志。「夜も更けた。私も今は宿へ帰ろう」。「更けぬ」の「ぬ」は完了「ぬ」の終止形。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

Q81. 答え：係助詞「なむ」（強意）

解説：体言「こと」＋係助詞「なむ」＋連体形結び「伝ふべき」（「べし」の連体形）。「このことこそ、本当に世に語り伝えるのがよい」と強調。

Q82. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」

解説：「散り」（四段「散る」連用形。未然形なら「散ら」）＋完了「ぬ」未然形「な」＋推量「む」。「ああ、花も夢のようにはかなく散ってしまうだろう」。

Q83. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「おはせ」（サ変未然）＋「なむ」。「思いやり深くいらっしゃってほしい」。

Q84. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」（連体形・婉曲）

解説：「色づき」（四段「色づく」連用形）＋完了「ぬ」未然形「な」＋推量「む」の連体形。下に体言「のち」が続くので婉曲（～ような）。「木の葉が色づいてしまったような後に、また参上しよう」。

Q85. 答え：係助詞「なむ」

解説：「あれ」（指示代名詞）＋「なむ」＋連体「はべる」。「あれが大変な翁です」。

Q86. 答え：ナ変「死ぬ」未然＋意志「む」

解説：「死な」（ナ変「死ぬ」未然形）＋「む」。「いかでか」の「か」は係助詞で、「む」はその結びの連体形。主語が「われ」（1人称）なので意志で、「いかでか～む」は反語。「私は親を残して、どうして先に死のうか、いや、死にはしない」。

Q87. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「遣はさ」未然＋「なむ」。「御文を遣わしてほしい」。

Q88. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」（連体形・婉曲）

解説：上一段「見る」は未然形も連用形も「見」だが、下に体言「人」が続くので「なむ」は連体形。願望の終助詞「なむ」は活用せず体言には続かないので、連用形「見」＋完了「ぬ」未然形「な」＋推量「む」の連体形（婉曲）。「このような有様を見るような人は、どう思うだろうか」。

Q89. 答え：係助詞「なむ」

解説：「雪」＋「なむ」＋連体「白かりける」。

Q90. 答え：係助詞「なむ」

解説：「賢き人」＋「なむ」＋連体「捨つる」。「賢い人こそ世を捨てる」。

Q91. 答え：完了「ぬ」未然＋意志「む」（疑問）

解説：「し」サ変「す」連用形＋完了「ぬ」未然「な」＋意志「む」。連用形接続。「私一人残されて、どうしようかしら」。

Q92. 答え：係助詞「なむ」

解説：「今日」＋「なむ」＋連体「侍る」。

Q93. 答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」

解説：上二段「尽く」は未然形と連用形が同じ「尽き」なので、形だけでは決まらない。上に係助詞「ぞ」があるので、文末は連体形で結ぶ。願望の終助詞「なむ」は活用しないので結びにならない。連用形「尽き」＋完了「ぬ」未然形「な」＋推量「む」の連体形（「ぞ」の結び）。「この病では、私の命はまもなく尽きてしまうだろう」。

Q94. 答え：ナ変「死ぬ」未然＋推量「む」（連体形・婉曲）

解説：「死な」（ナ変「死ぬ」未然形）＋「む」。下に体言「命」が続くので「む」は連体形で婉曲（～ような）。「死ぬような命を惜しまない」。

Q95. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「あら」（ラ変「あり」の未然形）＋「なむ」。未然形＋「なむ」＝他者への願望。「変はらずもあらなむ」は、打消「ず」の連用形＋係助詞「も」＋「あら」＋「なむ」で「変わらないでいてほしい」。「あの人の心が、変わらないでいてほしい」。

Q96. 答え：係助詞「なむ」

解説：「故院」＋「なむ」＋連体「仰せられし」。

Q97. 答え：完了「ぬ」未然＋意志「む」

解説：「寝（ぬ）」は下二段「寝（ぬ）」の未然形・連用形（同じ形）なので、形だけでは決まらない。主語が「われ」（自分）なので、他者への願望の「なむ」ではない。連用形「寝」＋完了「ぬ」未然形「な」＋意志「む」。「今夜は、私はここで寝てしまおう」。

Q98. 答え：願望（他者）「なむ」

解説：「給は」は尊敬の補助動詞「給ふ」（四段）の未然形（連用形なら「給ひ」）。未然形＋「なむ」＝他者への願望。「宮様が、今日はここにお泊まりになってほしい」。「泊まり給ひなむ」なら、連用形＋完了「ぬ」未然形「な」＋推量「む」で「きっとお泊まりになるだろう」。

Q99. 答え：ナ変「去ぬ」未然＋推量「む」

解説：「去（い）な」（ナ変「去ぬ（いぬ）」の未然形。「往ぬ」と同じ語）＋「む」。主語が「燕」（3人称）なので「む」は推量。「秋が来ると、燕もみな去ってしまうだろう」。

Q100. 答え：係助詞「なむ」

解説：「事」＋「なむ」＋連体「多かりける」。「しみじみと思うことが多かった」。